

岐路に立つ日本の安全保障

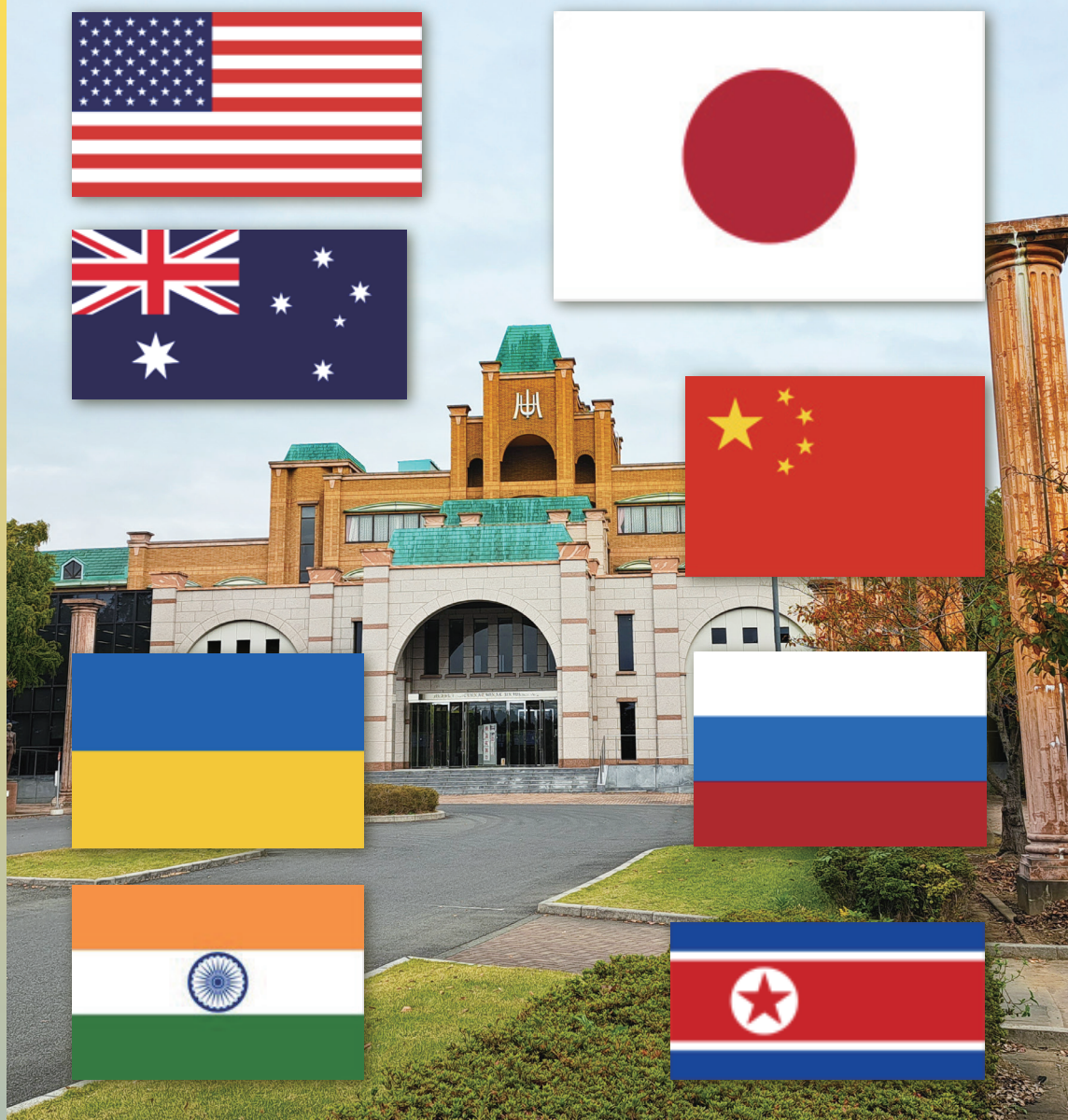
―より「統合」された防衛態勢の構築に向けて―

主催…平成国際大学

社会・情報科学研究所

共催…平成国際大学

法学部法政学会



防衛省 防衛研究所
政策研究部 主任研究官
佐竹 知彦氏

令和4(2022)年11月24日(木)

会場 平成国際大学 講義棟 319 教室 **入場無料**

時間 13時15分～14時45分 (12:45開場)

学校法人 佐藤栄学園
平成国際大学

社会・情報科学研究所

〒347-8504 加須市水深大立野 2000 お問い合わせ：0480-66-2100

岐路に立つ日本の安全保障

—より「統合」された防衛態勢の構築に向けて—

ロシアによるウクライナ侵攻、北朝鮮による核・ミサイル開発の深刻化、中国による台湾への軍事的圧力の強化、インド太平洋での経済的影響力の強化が懸念される中、遂に中国のミサイルが日本の排他的経済水域に着弾…。日本を取り巻く安全保障情勢が益々悪化する中、また米国の相対的な優位に陰りが見え始める中で、日本はいかなる防衛態勢を構築しようとしているのか。また日本が掲げる「自由で開かれたインド太平洋」を実現するために、米国やオーストラリア、インドといった国々との関係をどのように強化していくべきなのか。防衛省で実務経験を持つ防衛研究所の新進気鋭の主任研究官が、「インド太平洋の時代」における日本の安全保障政策について議論する。

講師：佐竹 知彦 氏 防衛省 防衛研究所 主任研究官



慶應義塾大学法学部、同大学大学院法学研究科修士課程、オーストラリア国立大学博士課程修了。Ph.D. (国際関係論)。2010年防衛研究所入所、2015年4月より現職。2013年～2014年にかけて防衛省防衛政策局国際政策課部員として多国間の安全保障協力を担当。専門は国際関係論、インド太平洋地域の安全保障、日米豪の安全保障協力等。
著書：『冷戦後の日豪安全保障協力—「距離の専制」を越えて』（単著、勁草書房、2022年）、『「防衛外交」とは何か』（共著、勁草書房、2021年）他多数。

コメンテーター *commentator*



浅野和生 教授

政治学の研究者。
一般社団法人日米台関係研究所理事、台湾関係の著書多数。
中国・台湾・日本の緊張関係について語る。



末澤恵美 教授

旧ソ連・中東欧の研究者。
何度も旧ソ連・東欧に出張し、日本政府の選挙監視員としてウクライナに派遣されている。



野澤基恭 教授

国際法の研究者。
国際関係も法の支配を受けるが、近年の大国の動きは法の支配など念頭にないように見える。現状を国際法の観点から考える。



青柳卓弥 教授

憲法の研究者。
昨今のウクライナ情勢や中国・北朝鮮との緊張関係において、日本国憲法下でどのような憲法解釈を行うべきかについて考察する。